

裁となり、東北振興の總裁となり、國家産業の樞要なるルートを體驗しつゝ遂に拓相となり、商相となられたのである。八田氏の拔群なる精勵と、常に時勢に一步先んずるの明智とは、遂に我國に於ける技術家としては空前の重要地位にまで、押出さるゝの當然な時代となつたのである。

公共の爲に善なりと信ずる處に、八田氏の誠意と努力は常に溢れたのである。此點は我國の隧道工事の發達、コンクリート工事の合理的施工の發達等、我々雑誌の上に於ても其指導に負ふ處頗る大なるものがあつた。

我國に於ても技術家にして大臣たりし人は故人となられた仙石實博士あり、採鑛出の井上匡四郎博士あり、農科出の有馬頼寧伯爵がある。仙石博士以外は兩氏とも皆夫々の社會的地位を以て公共の爲に努力されてゐるのは欣快にたへない處である。

日本は今や有史以來未曾有の大業に邁進してゐるのである。益々舉國一致の實力を發揮しなければならぬ時に、人類の文化に精進する實力の大臣として今回八田氏を土木學會長に迎へた事は、斯界の爲に慶賀此上もない次第である。

## 土木學會の總會と新役員

土木學會の通常總會は2月15日丸ノ内帝國鐵道協會の講堂に於て開催された。午後5時在京會員及京阪其他より出席の會員約200名參列し、辰馬會長議長席に就き開會、各役員より13年度事業報告及決算報告あり、次に本年度役員選舉の結果及び土木賞牌の贈呈を次の如く報告ありて、會長講演「土木技術者の海外進展に就て」の題で、我國土木技術界の發展と實力の充實せるを説き、今や大陸建設の爲に2900名の土木技術家が進出してゐる、何れも聖戰目的達成の爲に非常な決心で働いてゐる點を感謝強調され、今後の土木界の益々向上發展すべきを極言され、大拍手の内に總會を終了した。

次いで講演會に移り、滿洲國水力電氣建設局副局長本間徳雄氏の「滿洲國水力電氣事業に就て」の題で松花江第一發電所の特色ある大工事計畫を述べ、次いで哈爾市工務處長近藤謙三郎氏の滿洲の都市計畫に關する特異性其他に就て述べられた。

次いで別室にて晚餐會に移り、一同歡談中

に食事を終り、堀越副會長立ちて新舊役員送迎の辭を述べ、辰馬會長立ちて退任の答辭を述べ、八田新會長は恰も議會開會中で不參のため、谷口新副會長立ちて新役員を代表して謝辭を述べられ、古川老博士の萬歳三唱に一同唱和して和氣霽々裡に散會した。

新役員選舉、投票人員 893名

會長 當選 868票 八田 嘉明氏

副會長 當選 851票 谷口 三郎氏

常議員 當選 岡田 實氏

春藤 眞三氏 山中 良樹氏

和田 重辰氏 鈴木 長治氏

山本 亨氏 稻葉 通彥氏

松本伊之吉氏 瀧尾 達也氏

百武 定一氏 目黒 清雄氏

昭和13年度土木學會土木賞牌贈呈優秀論文『任意の數の集中荷重を擔ふ可撓性索條に就て』 工學博士 吉村太郎一氏

『濾過阻止率の計算』

工學博士 岩崎 富久氏

(以上)